



男女共同参画講演会が開催

1月19日、性や多様性を学び考えるための講演会を下妻公民館で開催し、約40人が参加しました。

講師には、自身の性別に関する葛藤の経験から、多様性の価値観について考える機会や考える材料を社会に提供することを使命として活動しているダイバーン代表あつきー(飯田あきる)先生を迎え、「性別でみる多様性と人権～自分の性別に向き合うことから始めてみよう～」をテーマに講演をいただきました。

参加者からは、「さらに理解を深めていきたい」「大変勉強になった」との感想が寄せられました。

☎ 福祉課

障害者等理解促進研修・啓発事業講演会

2月17日、市役所において、障害がある方への理解促進を図るための講演会を開催し、23人が参加しました。

講師に自閉症スペクトラム支援士で、認定NPO法人日本ボーディング協会認定スーパーバイザーとしても活躍の加藤香氏をお招きし、「障がいのある子どもをもつ家族～その形を考える～」をテーマに講演が行われました。

参加者からは「講義は大変わかりやすく、グループワークも楽しかった」「きょうだいにスポットをあてた講話は大変参考になった」との感想が寄せられました。

☎ 福祉課



千代川公民館ステージ

公民館まつりが開催

2月11日、17日、18日の計3日、第24回公民館まつりが千代川公民館で開催され、約1,700人が来場しました。

まつりには市内の各公民館教室や利用団体など延べ54団体が参加し、ステージ上での発表、作品の展示、会場での体験コーナーを通して、日頃の活動の成果を披露しました。ステージで発表を行った方は、「たくさんの方の前で披露できる機会があることが、今後のモチベーションにも繋がります。公民館まつりに参加できて良かったです」と話していました。

☎ 千代川公民館

在宅医療・介護に関する講演会

最期まで自分らしく

1月13日、市立図書館において、平間病院の内科医である宮原彩美医師による在宅医療・介護に関する講演会が開催されました。

講話では、「私はこの先どう老いていくの?」「親にはどうしてあげたらいいの?」と題し、自分らしく生き、そしてよりよい最期の時を迎えるための「人生会議」の話がありました。

参加者は、自分のこれからの医療や介護を受けるにあたって、意思表示のための「事前指示書」を実際に書くなど、身近なこととして体験することができました。

☎ 長寿支援課



左から馬場工場長、菊池市長

EL APSC合同会社(エスティローダー)と災害協定

1月25日、下妻市とEL APSC合同会社は、「災害時等での施設利用の協力に関する協定」を締結しました。

協定の内容は、市内での大規模災害発生時に、EL APSC合同会社の施設を一時避難所として避難者を受け入れ、被災者を支援するものです。

EL APSC合同会社の馬場俊之工場長は、「ぜひ地域のお役に立ちたい。命の危険が及ぶ場合には、かけ込んでいただきたい」と話していました。

☎ 消防防災課



左から小笠原さん、菊池市長

地域活性化起業人が着任

地域活性化起業人として、小笠原康さんが着任しました。任期は令和6年2月1日から令和9年1月31日までです。

地域活性化起業人とは、総務省が推進する制度で、三大都市圏の企業社員が、ノウハウや知見を活かし、地方自治体で業務に従事することで、地方への人の流れを創出できる制度です。

着任した小笠原さんは、「市内外から応援したいと思われる地域づくりを目指してふるさと納税の活性化に取り組めます」と意気込みを語りました。

☎ 企画課

茨城日産と災害協定

1月19日、下妻市と茨城日産自動車は「災害時における電気自動車等による電力供給に関する協定」を締結しました。

協定の内容は、市の避難所や茨城日産下妻店で電気自動車(EV)を蓄電池として使用し、被災者を支援するものです。

茨城日産の財前昭秀常務取締役は、「電気自動車は避難所で蓄電池として使っていただける」と話していました。

☎ 消防防災課



左から財前常務取締役、菊池市長

フジパンと災害協定

1月25日、下妻市とフジパン株式会社下妻工場と「災害時における救援物資提供に関する協定」を締結しました。

協定の内容は、市内での大規模災害発生時に、フジパン株式会社下妻工場からの物資の提供により、被災者を支援するものです。

フジパン株式会社の谷原敏下妻工場長は、「救援物資を提供させていただくことで、少しでも被災者の力になれるよう協力したい」と話していました。

☎ 消防防災課



左から谷原工場長、菊池市長